

Fukushima NOW

(公財) 福島県国際交流協会では、震災からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の現在の様子を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。



Voices from Fukushima

会津の風光明媚を母国へ発信

荒井 ソニア 直美さん

(ブラジル出身・会津若松市在住)



福島県費留学生として、今春から会津大学で学んでいます。私の曾祖父母は福島県の出身です。その縁で福島県人会の活動やイベントに参加していました。今回、自分のルーツである福島に行くことや日本で学びたいという思いが叶いました。来日した時、会津は桜がちょうど満開の

時期で、まずその美しさに魅了されました。

東日本大震災について、母国でさまざまな報道を見聞きしました。私が最も気に留めたのは、健康に影響はないのか、生活に支障はないのかなどの放射線に関する情報で、専門機関から公表される正確な情報を得ることに努めました。また、私が生まれ育ったブラジル・サンパウロ州は、豪雨や台風、大雪などの大きな自然災害がなかったところなので、有事の時はどう行動し、対応すべきなのかを考えるようになりました。



▲6月、「全国植樹祭1年前記念イベント」に参加

大学生生活のほか、県の行事や交流会に参加したり、県内の観光地に足を運んだりしたりし、福島での日々の生活を豊かにしています。自宅から大学に通う通学路で、磐梯山を背景に同じ位置で田んぼの風景をほぼ毎日撮影しています。代かき・田植えから稲刈りまでの変化の様子をタイムラプスにし、会津の自然や景色の美しさを伝えたいと考えています。

震災で気づいたコミュニケーションの大切さ

岩澤 クリスティーナさん

(フィリピン出身・白河市在住)



来日してからしばらくは東京や広島、群馬などで暮らし、約10年前から白河市内で暮らしています。母国と比べると、日本は生活する上での安全が守られていますし、女性が働く上での制度がきちんとあるので、日本のどこで暮らしても悪い印象はありません。ただ、東日本大震災が発生した当時、情報収集するツールを持ち合わせていなかったため、発信される情報や母国大使館からの重要な情報を後から知った経験があります。そのことがあって今では、スマートフォンを活用し、友人や仲間との付き合いは特に大事にしています。日々コミュニケーションを取りながら、お互いが日常生活で困らないよう助け合っています。



▲5年前から白河市内の企業に勤務している

日本での生活が長いので、たいていのことは独りでできるようになってきましたが、子どもが通う学校からの連絡事項や市役所などから送られてくる文書に書かれている日本語が難しく時折苦労しています。また、今後自分が高齢になった際の年金や介護についてもよく理解できていないです。私と同じような思いでいる長期在住の外国出身者は多いと思います。日本での老後について知る機会があれば、参加したいと思います。

Scenes of Fukushima

コミュニティ福島 体験を通して福島の「今」を学ぶ

三春町にある「福島県環境創造センター交流棟『コミュニティ福島』」は、県内外の小・中学生の体験学習や、海外からの視察、福島県の再生可能エネルギーの取り組みなどの取材で訪れる団体が増えてきています。

館内には、福島自然环境や放射線に関する展示のほか、360度全方位から映像を体験できる全球型のシアターなどがあり、未来へ向けた福島の「今」を理解することができます。体験型エリアの「放射線ラボ」では、身近なもので例えた説明のパネル展示やゲームを通して、放射線、放射能、放射性物質の違いや放射線量はどうに減っているかなどについて、自分で判断するための情報を見つけることができます。



▲体験型エリア（放射線ラボ）の展示に興味深く見学する外国人来場者

ベトナム人留学生との交流



▲こけし絵付けをする留学生のツイさん

ふくしま・ベトナム友好協会主催による短期留学研修で、ベトナム・フォンドン大学生2名が7月9日から3週間、福島市に滞在しました。滞在中は、企業の業務研修に臨んだり、ビジネスマナーについて学んだりしました。7月17日（祝・月）には、福島大学のベトナム人留学生9名も加わったバスツアー交流会が行われ、土湯温泉で温泉入浴やこけし絵付けを体験しました。

ルーツのボンダンス（盆踊り）を披露

ハワイの「ホノルル福島県人会」と「ホノルル福島ボンダンスクラブ」の関係者約80名が、福島市を訪れ、7月22日（土）に福島市の四季の里で開催された「フクシマ・ハワイ・ボンダンス・フェスティバル」に参加しました。盆踊りは、移民とともにハワイへ渡り、今もなお「ボンダンス」として継承されています。今回の訪問は、彼らのルーツである福島で市民と一緒にボンダンスを踊りながら交流を深めるという大変有意義なものとなりました。



▲やぐらを囲んで踊りを楽しむ参加者たち

多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県公式復興関連情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」では、福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動などを9言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）でお知らせしています。

ふくしま復興ステーション <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>



FIA Information

○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国語で外国出身者からの生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日
9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日
10:00～14:00 ※第4・5木曜日は事前予約が必要

電話：024-524-1316(相談専用)
E-mail：ask@worldvillage.org (相談専用)

発行者

(公財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1
福島県庁舟場町分館 2階
TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308
E-mail info@worldvillage.org
URL <http://www.worldvillage.org>

SNS にも随時情報発信中！

Facebook <https://www.facebook.com/fiainfo>
Twitter https://twitter.com/fia_info